

# ぐんま幼児教育センターだより

## 第34号

群馬県総合教育センター 幼児教育センター 平成31年3月発行



### 生き生きと輝く子どもの学びを支えるために

幼児教育センター長 坂口 淳子

ある園でのことです。12月、子ども達（5歳児）は、お楽しみ会のプレゼントのコマを使って遊び始めました。一人回し、二人回し……。友達の様子を見て、夢中になってコマ回しに挑戦する子どもが増えました。3学期になってもその姿は続いていました。Aさんも、コマを手に取りやってみますが、なかなかうまくいかないまま2月になりました。ひもを途中まで巻くと力加減がうまくいかず巻いたひもが崩れてしまいます。それでも何度か繰り返しますが、うまくいかず、あまり執着する様子も見せずに他の遊びに移ります。でも翌日になるとまた、コマを手に取ります。友達が、見かねて「こうにするんだよ」と手本を見せて教えます。でもうまくいかず、やはりやめてしまいます。3月に入り、とうとう回せないのはAさんだけになってしまいました。「〇〇組全員で回したい」という学級の思いが後押しし、Aさんの「自分も回したい」という気持ちが高まりました。毎日Aさんに寄り添う誰かしら友達の様子が見られました。「(崩れないように) ひもはコマにくっつけながら巻くんだよ」「体の横から平らに投げるんだよ」。Aさんも、教えている友達も真剣です……。その後、「あっ」とみんなで息をのみ、「やったあ」と歓声上がる日もそう遠くありませんでした。コマ回しという遊びを通して、目当てをもって試行錯誤すること、うまくいかない残念さを感じることに気づくこと、困難を乗り越えること、やり遂げた満足感を味わうこと、自分って結構やるじゃないと自信をもつこと……。様々なことを感じ学んだことと思います。幼児期の時間に余裕があるこの時期だからこそできる学びです。また、この背景には、コマ回しを子どもと一緒に楽しんで先生の様子、回らなかった時、一緒に残念がる先生の様子、友達が教えているのを見守る先生の様子がありました。

平成30年度は、新しい保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領施行の、記念すべき年でした。3歳児以上の教育に関する部分の共通化が図られ、幼児期の教育における見方考え方が明確にされ、幼児期に育てたい資質・能力の3つの柱「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されました。しかし、環境を通して行う教育であり、遊びを通して学ぶという幼児期の教育の基本に変わりはありません。「これからの幼児教育を考える」（ベネッセ教区研究所2017春号）で汐見稔幸東京大学名誉教授は、「21世紀に求められる幼児教育のキーワードは「学び」であり、子ども主体の遊びや活動を通して自ら学ぶ姿を支えることが求められます」と記しています。子どもが心をたくさん働かせ、心弾ませて楽しんでいる遊びを教師が支えていくわけです。その教師が生き生きとしていること、子どもと一緒に心弾ませわくわくしていることはとても大切なことです。

幼児教育センターで研修会等に講師を派遣する事業「保育アドバイザー派遣事業」を実施しております。平成30年度の依頼の中で、教育要領等の改訂内容や、保育の質を高めることに関する内容が多かったのですが、中に、「職員が思いやりをもち輝き続ける職場」「心・体がリラックスできるヨガ体操」といったテーマがありました。生き生きと輝く子どもの学びを支えるために、先生が生き生きと輝いていたいという思いがあったのでしょうか。

幼児教育センターでは、保育の質の向上を目指し保育現場で子どものために活躍されている先生方が生き生きと活躍できるように、これからも、研修や保育アドバイザー事業を充実させることで、お手伝いしていきたいと考えています。どうぞご活用ください。

# 平成30年度 特別研修員研修

特別研修員による幼児期の教育に関する研究の概要を掲載します。

## イメージを共有しながら友達と一緒に遊びを楽しむ幼児の育成 —音楽を活用した環境の構成と言葉掛けの工夫を通して—

特別研修員 幼児教育 高野 佳子(幼稚園教諭)

幼児の実態

- 曲に合わせて、自分なりに歌ったり踊ったりすることが好きな幼児が多い。
- 自分なりのイメージをもち、表現することが好きな幼児が多い。
- 言葉で伝えることが苦手だったり、相手の気持ちを受け入れられなかったりするため、友達との遊びが長続きしない。

- ◇自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け入れながら遊ぶようになってほしい。
- ◇遊びのイメージを共有しながら友達と楽しく遊ぶようになってほしい。

教師の願い

### 実践<5歳児10月> 「音楽会ごっこをしよう」(思い思いの遊びの中で)

#### 手立て①

音楽を活用した環境の構成の工夫

##### 音楽に関わる絵本や写真などの掲示



遊びが展開される場所に提示

音楽会に関する読み聞かせを聞いたり、経験した写真を見たりすることで、音楽会へのイメージを共有することにつながった。

##### 幼児の興味のある、歌・曲の選定



カセットテープとホワイトボード

この曲なら踊れるよ

プログラムを書こうよ

好きな曲を相談しながらプログラムに書き、遊びのイメージを共有して踊りを楽しんだ。

##### 学級での振り返りの場の設定



友達の顔が見える座り方

明日は、衣装を作ろうよ！  
そうだね。ビニール袋で作ろう！

その日の遊びを振り返り、他者の意見を聞くことで、明日の遊びのイメージを共有することにつながった。

#### 手立て②

イメージを共有できるような言葉掛けの工夫

##### イメージを言葉で表現できるような言葉掛け

たいこの音みたい！

どんな音がするの？

違う音に聞こえるね

ほんとだ！  
ほくのはかみなりの音！  
一緒に叩いてみようよ

手作りの楽器を鳴らす場面

どのような音が出せるか工夫し、言葉で伝え合うことで、イメージを共有しながら一緒に遊んだ。

##### 他者との思いの違いに気付くような言葉掛け

僕はあっちでお店屋さんをやったかったんだ

〇〇くんは言いたいことある？

そうだったんだ。何も言わないで一人で行ったから、困ったよ

じゃあ、どこでやるか、3人で相談しよう

伝え合う場面

互いの思いを伝え合うことで相手の気持ちに気づき遊びのイメージを共有することができた。

成果

- 幼児の興味のある歌や曲を、生活や遊びの中で取り入れてきたことで、歌ったり踊ったりする遊びを友達と展開するようになってきた。
- 振り返りの時間に、自分の思いを伝えたり友達の話の聞いたりすることで、イメージを共有することができ、翌日の遊びにつながった。
- 互いの思いを伝え合うように援助したことで、自分の思いを伝え、友達の話の聞く姿が増え、思いを伝え合いながら遊びを続けるようになった。

課題

- 遊具や材料・曲や絵本などを提示するタイミングを考慮する必要がある。
- 同じ音楽会ごっこでも、それぞれの幼児のイメージが少しずつ違っているため、幼児一人一人のイメージを教師がしっかりと見取り援助していくことが大切である。

★特別研修員の研究に関するお問い合わせは、幼児教育センターにお願いいたします。

TEL 0270-26-9203

FAX 0270-26-9222

★特別研修員の研究内容等は、4月以降、総合教育センターのWebページに掲載されます。

< トップページ → 教育研修員研修 → 教育研修員の報告書 → 平成30年度 >

# 今年度の研修を振り返って

## 夕やけ保育研修会

今年度は、9回の研修会を実施しました。  
のべ513名の方に参加していただきました。



### 共通テーマ研修会

開催地	内容等	講師
渋川市 千代田町 安中市	「乳幼児の発達とふれあい遊び」	NPO法人時をつむぐ会内 「ぴよぴよの会」代表 横山由美子 氏
<p>参加者の声 わらべ歌を子供の年齢に合わせて選ぶことで、子供の発達を促すことができるということが分かった。</p>		

### 地域別研修会

開催地	内容等	講師
沼田市	幼保こ小の連携・接続	高崎健康福祉大学 教職支援センター長 高梨珠子 氏
<p>参加者の声 0歳から育ててきていることをしっかり接続させることが大切。接続部分だけ意識するのではなく、それまでの過程が大切だと感じた。</p>		
藤岡市	子供の行動から見えてくること ～応用行動分析の視点から～	群馬大学教育学部 教授 霜田浩信 氏
<p>参加者の声 苦手なことに向かう気持ちに関連し、「慣れる」とは、「我満」ではなく、「大丈夫」を重ねることという言葉が心に残った。</p>		
嬭恋村 高崎市	幼児の見取りと保育の基本	明和学園短期大学 教授 横坂好枝 氏
<p>参加者の声 「意味ある状況をつくり出していくこと」を考えながら、子供たちの成長のために保育をしていきたい。</p>		
みどり市	気になる幼児の理解と対応 ～ティーチャートレーニングをとおして～	群馬大学大学院保健学研究科 講師 十枝はるか 氏
<p>参加者の声 行動を客観的に見て、“冷静に”子供と向き合うことが大切だということを学んだ。</p>		

### 特別講演会

開催地	内容等	講師
伊勢崎市	幼児の理解と評価を深めるための研修 に向けて	東京大学大学院 教授 秋田喜代美 氏
<p>参加者の声 「子供の問いかけには、良質な問いで返す」という言葉にハッとしました。探究心を高める保育を心掛けたい。</p>		

## 家庭教育充実のための地域で取り組む子育ての支援者研修会

県内各所で、8回の研修会を実施しました。  
参加者は、286名でした。  
ご参加ありがとうございました。



### 基本研修

開催地	内容等	講師
伊勢崎市	子育て支援の現状と課題	群馬大学大学院教育学研究科 教授 音山若穂 氏
	子育て支援の事例発表	桐生市子育て支援センター センター長 関沼八千代 氏 主任保育士 橋本幸江 氏
<p>参加者の声 不安を抱えて一生懸命子育てをしている保護者の気持ちをもっと考えていきたいと思った。</p>		

### テーマ別研修

開催地	内容等	講師
伊勢崎市	子どもの育ちを支えるために ～5歳児運動健診を中心とした取組～	日本体育大学 准教授 宇部弘子 氏
<p>参加者の声 子供たちの持ち味を捉えて、できることを認め、どうサポートしていけばよいかを考えていきたい。</p>		
館林市 玉村町 中之条町	これからの保護者会を考える「ワクワク子育てトーク～ぐんまの親の学びプログラム」を活用して	県生涯学習センター社会教育主事 幼児教育センター指導主事
<p>参加者の声 保護者の目線でも物事を考えていくことが、保護者とのよい関係を築く上で大切だと思った。</p>		
みなかみ町 桐生市 邑楽町	気になる幼児をもつ保護者への支援	育英短期大学 教授 栗山宣夫 氏
<p>参加者の声 保護者を普通という圧力や焦りから解放するように安心感を与え、信頼関係を築いていきたいと思った。「何とかしよう」という思いではなく、「共に考える」という姿勢が大切だと思った。</p>		



来年度は、「夕やけ保育研修会」と「子育ての支援者研修会」を統合し、新たな「夕やけ保育研修会」として出発します。ご期待ください。